

53 糊の吸着・脱着の電導度による測定

お茶の水女子大学 ○森浦 幸子
松川 哲哉

目的 いわゆる合成糊料はアセテートや合成繊維にも糊付きがよいとして使用されているが、それらの糊料吸着量を残液の電導度の測定によって算出し、吸着や洗浄

による脱着状況を探ろうとした。電導度法は、原則としては電解質糊料にしか応用できないが、連続的にしかも迅速に定量できる点が望ましいものと考えられる。なお基礎研究の一部は繊維学会（昭和 33.5.29）において発表した。

実験方法 試験布としては、木綿・羊毛・絹・レーヨン・アセテート・ナイロン・ビニロン等を用い、あらかじめある程度まで精製をする。糊料としては、カルボキシメチルセルロースのナトリウム塩 (SCMC)、アルギン酸ソーダ (SA)、ポリビニルアルコール (PVA) 等を用い、0.1~2.0% 水溶液とする。

糊液中に試験布を浸漬したあとの残液の電気抵抗、および糊付布を蒸留水中に浸漬したときの液の電気抵抗を測定し、各繊維に対する吸着・脱着性の大小を比較した。

実験結果 SCMC は、木綿に比べてアセテート・ビニロン・羊毛には吸着が少なく、とくにアセテートでは脱着も遅い。SA は、木綿に比べアセテート・ビニロンには吸着が多く、脱着もやや遅めであった。これらの詳細について発表する。